

学校保健計画

資料 4

		4・5月	6月	7・8月	9月	10月	11月	12月	1・2月	3月
目標	●健康な生活に必要な生活習慣を知る ●体や身の回りの清潔について知る ●自分の体に関心を持つ ●食事の仕方を楽しく食べる	●歯を大切に ●梅雨期の健康で安全な生活について知る ●歯の健康に関心をもち歯みがきの大切さを知る	●夏の健康な生活の仕方を知り、元気に過ごす ●水遊びの約束を守り、楽しく遊ぶ	●体を動かすことを楽しみ健康な体作りをする ●体の成長に関心を持つ	●眼の健康に関心をもち、眼を大切に ●戸外で体を動かして遊ぶことを楽しみ、健康な体作りをする ●歯をみがくことを知る	●感染症(風邪)の予防について知る ●衣服の調節について知る ●歯の健康への関心を高める	●冬の健康な生活の仕方について知り、元気に過ごす ●よい姿勢について知り姿勢を正しくする	●寒さに負けず、戸外で元気に遊ぶ ●生活リズムを見直し健康に過ごすための体力作りをする ●自ら進んでかぜの予防をする	●一年間の生活を振り返って、進んで健康で安全な生活をしようとする意欲を持つ ●基本的な生活習慣の大切さがわかる ●体と心の成長を喜ぶ	
		●食べ物と体の関係を知ることで食べ物に興味・関心をもち、食べることに興味をもつ								
行事	●身体計測 ●アタマジラミ・爪調べ	●身体計測 ●アタマジラミ ●爪調べ ●手洗い指導 (薬剤師)	●身体計測 ●アタマジラミ・爪調べ	●身体計測 ●アタマジラミ ●爪調べ ●健康診断 [内科]	●身体計測 ●アタマジラミ ●爪調べ ●視力検査 ●聴力検査	●身体計測 ●アタマジラミ ●爪調べ ●手洗い指導 (薬剤師)	●身体計測 ●アタマジラミ ●爪調べ ●健康診断 [内科]	●身体計測 ●アタマジラミ ●爪調べ	●身体計測 ●アタマジラミ・爪調べ	●身体計測 ●アタマジラミ ●爪調べ ●健康診断 [内科 (乳児・新入児)] ●足型
	定期健康診断[内科 歯科(全児)・耳鼻科・眼科検診・視力検査・聴力検査(3・4・5歳)・尿検査(4・5歳)]									
指導内容	●遊具・用具の使い方 ●排泄(トイレの使い方) ●手洗い・うがいの仕方 ●衣服と持ち物の清潔と整頓 ●食事のマナー ●健康診断の目的と受け方 ●歯の磨き方	●健康診断事後措置 ●治療推奨 ●弁当の管理 ●歯の健康(歯の役割、みがき方) ●梅雨期の健康(身の回りの清潔、食中毒) ●食べ物と健康	●夏の健康な生活(夏の病気と予防、生活リズム、帽子の着用、水分補給、体や衣服の清潔) ●熱中症の予防 ●鼻の健康 ●プール遊びについて	●規則正しい生活習慣(手洗い・うがい、歯磨き、食事、身の回りの清潔、生活リズム) ●熱中症の予防 ●体の成長と変化 ●ケガの手当(救急の日)	●目の働き、仕組み ●健康な体作り(運動、睡眠、休養・食事、排泄など) ●熱中症の予防 ●歯の磨き方	●感染症の予防(手洗い・うがいを習慣づける) ●咳エチケット ●衣服の調節 ●歯の健康	●冬の健康な生活(戸外遊び・手・足の清潔と保護・室内の温度調節・加湿・換気) ●姿勢・骨について	●規則正しい生活リズム ●健康な体作り ●感染症の予防 ●やけどについて	●健康的な生活習慣 ●心や体の成長 ●耳の健康	
	●健康調査(観察) ●救急体制周知の徹底 ●職員健康診断 ●職員腸内細菌検査(通年) ノロウイルス検査(4回/年)	●プール遊び時の安全指導 ●弁当の管理	●プール遊び時の健康管理、水質管理、安全指導 ●熱中症対策 ●弁当の管理	●熱中症対策 ●弁当の管理	●弁当の管理	●感染症の予防対策および実態把握(欠席状況の把握)	●感染症の予防対策および実態把握(欠席状況の把握)	●感染症の予防対策および実態把握(欠席状況の把握)	●けんこうてちょう、健康診断票のまとめ	
保健管理	●安全点検 ●園内整備(通年) ●飲料水水質検査(薬剤師) ●おもちゃの衛生(通年) ●医薬品の点検 ●救急バックの点検 ●室内の温度・湿度(通年) ●空気清浄機の衛生管理	●安全点検 ●プール水質検査(薬剤師) ●害虫などの駆除 ●砂場の衛生 ●空気清浄機の衛生管理	●安全点検 ●光化学スモック・PM2.5 ●手洗い場・足洗い場の衛生、安全 ●対象園:ダニアレルゲン検査(薬剤師) ●空気清浄機の衛生管理	●安全点検 ●園庭整備 ●医薬品の点検 ●救急バックの点検 ●空気清浄機の衛生管理	●安全点検 ●照度検査(薬剤師) ●空気清浄機の衛生管理	●安全点検 ●医薬品の点検 ●救急バックの点検 ●空気清浄機の衛生管理	●安全点検 ●空気清浄機の衛生管理	●安全点検 ●空気清浄機の衛生管理 ●医薬品の点検 ●救急バックの点検 ●安全点検 ●空気環境調査(薬剤師)		
健康相談	●学校医による心身の健康上の問題や医療についての相談活動 ●子育ての中で健康上不安を抱える保護者の相談活動									
日常生活	●健康観察健康状態の把握・欠席状況の推移 ●食育(偏食・捕食・咀嚼・栄養等摂食指導) ●生活習慣(手洗い・うがい・歯磨きなど) ●園内環境安全管理									
組織活動	●豊中市学校保健会研修会 ●歯科保健に関する啓発活動(よい歯のつどい) ●地域支援(身体計測・保健の話・健康相談など) ●大阪保育所保健連絡協議会研修会									

《学校安全計画》

月	安全教育			安全管理・アレルギー管理	組織体制
	生活安全	交通安全	災害安全		
4	<ul style="list-style-type: none"> ○園内の安全生活の確認 ・登降園の仕方 ・遊びの場や遊具の使い方 ・困ったときの対応方法 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○安全な登降園の仕方 ・交通安全の約束 ・横断歩道の渡り方、安全確認の仕方、信号の正しい見方 ○園駐車場、駐輪場の利用方法 ○園外保育 ・散歩・遠足のルールの確認 ・緊急時対応の職員間の意思統一 ○保護者への登降園時の事故防止の協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ◎避難訓練の意味や必要性 ○避難方法 ・避難経路や場所、合図(非常ベル、放送)を知る ○消防用設備自主点検(消火器) ○職員の消火訓練 ○火災時の避難訓練 ・靴を履き替えない、持っているものは置いて避難 ・ハンカチを鼻、口にあてる ※慌てずに状況に応じた避難経路を想定する ※保育教諭間の連携を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ○安全点検票の作成 ○園内外の環境安全点検、整備、危険物除去 ○戸外遊具、室内遊戯の安全点検 ○危険な行動に対する保育教諭同士の確認 ・共通理解、指導の徹底 ○食物アレルギー児への対応を職員全体で確認 ・保護者、担任、調理担当、保健担当等でミーティング ○毎月1回のアレルギーチェック ○乳幼児突然死症候群の予防確認 ・乳児午睡チェックなど 	<ul style="list-style-type: none"> ○園だよりや保育教諭等から口頭で、連絡をする ・年間を通して園生活を安全に過ごすためのきまり(登降園方法、出欠の連絡、災害時の対応等) ・一斉配信メールの登録状況把握 ・通園状況の把握 ・暴風雨警報発令時の休園について職員確認、保護者通知 ○学校薬剤師による環境衛生検査(採光・騒音など) ○緊急連絡先の確認(保護者) ○対応困難ケースや虐待発生時の対応について園内で職員確認 ・関係専門機関との連携
5	<ul style="list-style-type: none"> ○園内の安全生活の確認 ・生活や遊びの中で必要な道具の使い方(いす・はさみ・箸など) ○集団行動の際の約束 ・一人で行動しない ○食中毒対策 ・食品の管理 	<ul style="list-style-type: none"> ○春の交通安全週間 ○散歩等園外の交通安全 ・実際に横断歩道の渡り方を知る ・信号が点滅しているときの判断の仕方 ・道の端を歩く など 	<ul style="list-style-type: none"> ○地震時の避難訓練 ・地震について知る ・机の下に潜る ・揺れがおさまるまで動かない ・靴を履く など 	<ul style="list-style-type: none"> ○園外保育の計画作成 ○遠足の下見で安全の確認 ○散歩コースの安全確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期健康診断の結果連絡、健康で安全な生活についての意識の向上 ○光化学スモッグ発令時の対応の仕方
6	<ul style="list-style-type: none"> ○雨の日の歩行の楽しみ方 ・雨具の使い方 ・廊下、室内を走らない ○知らない人についていけない「いかのおすし」の約束を知る ○休憩・水分補給の大切さを知る ・熱中症対策 	<ul style="list-style-type: none"> ○雨の日の安全な歩行の仕方 ・傘の持ち方など ・雨天時での登降園時の危険性について注意喚起(保護者へお便りなどで周知) 	<ul style="list-style-type: none"> ○不審者の避難訓練 ・一番近い部屋に入る ・大人の近くに来る ・内側から鍵をかける ・静かにする ・カーテンはケースバイケースで閉める など 	<ul style="list-style-type: none"> ○乳幼児の動線を考え、室内での安全な場づくりの工夫 ○アレルギー交流研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ○夏の生活に必要な安全面への周知 ・熱中症への配慮 ○救急蘇生法とAED使用法や応急処置の訓練 ・消防署主催研修・各職員随時研修参加(AED含む)の研修
7	<ul style="list-style-type: none"> ○水遊びのきまりや約束 ・準備体操 ・プールでの約束 			<ul style="list-style-type: none"> ○プールの清掃、水遊びの遊具、用具の安全点検 ○冷房の温度調整 	<ul style="list-style-type: none"> ○水遊びのための健康管理 ○プールの監視体制 ・当番制 ・水質管理の方法確認
8	<ul style="list-style-type: none"> ○危険な虫の確認 ・セアカゴケグモや蜂、毛虫 		<ul style="list-style-type: none"> ○地震時の避難訓練 ・長く揺れる地震を想定 ・頭を守る、落下物など危険がない場所の確認 ・保育教諭等の指示があるまで動かない ・地震と火災の避難方法の違いを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ○プールの清掃 ○水遊びの遊具の安全確認 	
9	<ul style="list-style-type: none"> ○生活リズムを整えて楽しく過ごす ○戸外で全身を十分に動かして遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ○秋の交通安全週間 	<ul style="list-style-type: none"> ○台風・大雨・水害の避難訓練 ・避難経路や避難場所の確認 ・役割分担 	<ul style="list-style-type: none"> ○使い慣れた遊具・場所の安全指導の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ○園だよりや保育教諭等より口頭で伝える ・生活リズムの調整、体調への十分な配慮を依頼
10	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な遊具の安全な使い方、遊び方 ・ボール(投げ方、蹴り方)やなわとびのなわ等の使い方 ○集団行動の約束 ・保育教諭等の指示を聞き自分から気をつける ○感染症対策 ・うがい、手洗い ・咳やくしゃみをするときの注意事項 ○異年齢児の交流場面での安全に関する自主的な約束の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○散歩等園外の交通安全 ・実際に横断歩道の渡り方を知る ・信号が点滅しているときの判断の仕方 ・道の端を歩く ・ふざけて歩かない など 	<ul style="list-style-type: none"> ○総合訓練 ・全体の連絡手段の確認 ・避難経路や避難場所の確認 ・役割分担 	<ul style="list-style-type: none"> ○戸外での遊び、遊びの場、遊びの動線への配慮 	
11		<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全教室を受ける ・警察官や市の職員から標識や交通安全の話や映像を見たりする ・園庭で疑似道路を作り、信号を確認したり横断歩道を歩く 	<ul style="list-style-type: none"> ○火災避難訓練と消火訓練 ・消防署から消火、通報訓練を受ける 		
12	<ul style="list-style-type: none"> ○体を動かして遊ぶ ・戸外で遊ぶ ○冬の健康な遊び方、安全な行動の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全に関する約束の再確認 		<ul style="list-style-type: none"> ○戸外遊びの促し 	<ul style="list-style-type: none"> ○園だよりや保育教諭等より口頭で伝える ・冬の健康で安全な生活について(手洗い、うがい等)
1	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで体を動かし、安全で活発な行動 ・室内にこもらず、戸外で活動 ○雪の日の安全な遊び方、身支度の仕方 		<ul style="list-style-type: none"> ○地震・火災避難訓練 ・地震後に火災発生の可能性を知る ○園内、その他の場所での非常災害時における避難指示者の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○暖房の温度、室内の換気 ○アレルギー研修(エビデン講習など) 	<ul style="list-style-type: none"> ○登降園時の安全、大地震発生時の避難場所、連絡方法などの再確認 ○降雪時の登降園時の歩行、身支度などへの配慮
2	<ul style="list-style-type: none"> ○暖房器具の危険性、安全に関する約束 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校との連携 ※5歳児・小学校見学により付近の通学路の危険な場所、安全な歩行の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ○慣れ防止のための工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○一年間の安全点検の評価・反省 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校との連携 ・5歳児の就学に向けての心構え(危険な道路、場所の確認)
3	<ul style="list-style-type: none"> ○戸外で遊ぶ時の注意事項を再確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通ルールの再確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通してのまとめ、注意点の再確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○次年度の計画作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○遊具の安全点検の方法について再確認

【交通安全】

- ・年に一度は警察や市の職員を呼び、交通安全教室を開く。
- 5歳児は実際に横断歩道を渡りに園外へ行くこともある。
- 園庭に疑似道路を作り、横断歩道を渡ったりする。

【研修】

- ・普通救命講習など心肺蘇生法(AED含む)の研修
- ・アレルギー研修
- ・ヒヤリハットの研修
- ・防災研修 など

【災害安全】

- ・火災、地震、不審者などの避難訓練を行う(水害、台風等することも)
- ・火災については毎月行い、年に一度は消防署からの消火訓練を受けること

【ポイント】

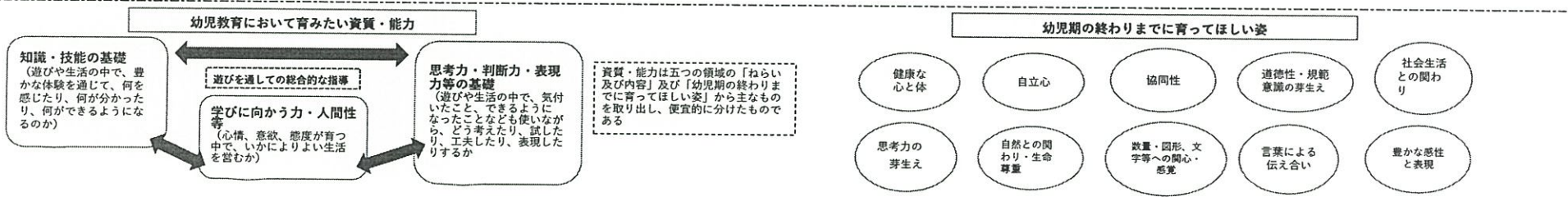
1. 各園の児童の状況、立地条件などを考慮し計画作成を行うこと。
2. 必要に応じて危機管理マニュアルの見直しを行うこと。

★月間指導計画：記入方法の参考資料1

月間指導計画【 歳児 月】		園長	副園長	担任
月の目標	A B C D			
子どもの姿	*「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりにまで育てほしい姿」を意識しながら、年間指導計画A B C Dの目標をふまえて、この月でどのような子どもに育てようとしているか、どのような力を付けていくか、保育の基礎となる考えや姿勢を記入していく。活動の内容、友達や保育者との関わりで具体的にあらわす。			
ねらい	*表面に見えている子どもの姿：子どもがどう遊んでいるかを観察して、遊びや活動に対し子どもが実際に、持っている気持ちや認識、友達との関係性などを分析すること。 *表面に見える子どもの姿と分析した課題につながる姿を書く。			
期	1週（日～日）	2週（日～日）	3週（日～日）	4週（日～日）
内容	*生活、遊びに記載した事項が、養護、5領域、食育のどの項目を示しているかを意識すること。 *ねらいを実現するために、どのような活動をするかを、具体的に書く。ねらいに添って週ごとに活動の変化を書く。 *「育みたい資質・能力」は、一で記入しては良い。 *「養育」から「健康・食育・環境・表現・人間関係」食育を意識して書き込むが、それぞれは、関連し合っている。教科のように長えるのではなく、総合的に遊びを通して身にまけていけるよう活動を考える。 *幼児期の終わりにまで育てほしい姿（10の姿）は、到達目標ではなく、方向性であることを理解し作成する。 *活動に偏りがないように遊びを分けるなど工夫する。			
環境構成	*保育のねらいに関わって、子どもが主体的に創りだしている活動に寄り添って、どのような援助をすれば、乳幼児期に身につけるべき力になるのか、大切にすべき配慮を記入すること。 *その遊びに対して、子どもが自ら作り出す環境と、意図して保育者が設定する環境を環境構成として考え、遊びの展開に沿ってつけておくこと。 *保育者は、「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」を育みたい姿として意識し配慮の視点とすること。			
評価	*ねらいや活動が、子どもの思いに合っているか、子どもが主体的に活動できたか、子どもの意欲につながったか、うまくいかない場合はどういうことが考えられるかを分析すること。また、活動の中で子ども達の関係性も把握すること。 *保育を振り返るに当たり、自己評価としてP（計画）D（実践）C（評価）A（改善）サイクルを活用していく。			
保護者支援	*保育をしていく上で保護者支援はこども園に不可欠であり、保護者の現状・背景、子どもの姿から、不安や悩みを抱えている状況を把握し寄り添う手立てを探る。 *クラス集団、子どもの現状から保護者と共一緒に子育てを考えていく内容を明記する。			
地域支援	*「夢プラン」の公立の役割の一つとして、職員一人一人が地域にどう関わるか、意識を高めることが大切。 *地域担当係と共に地域に関わる活動を、こども園の子も自らにどのような出資の場として設定するのが大切。 *こども園全体として、全クラスや職員が関わっていく活動を、交流会や講座など企画していく。 *地域の子育て団体や民間保育園、近隣小学校等との連携を行い、地域のネットワークの拠点としての位置付けをこども園が担っていくことを自覚する。			
次月の課題	評価・反省、子ども理解を踏まえ、次月のねらいを年間カリキュラムと照らし合わせながら、具体的な課題を探る。			

- ◎アクティブ・ラーニングの視点が重要
- *直接的・具体的な体験の中で「見方・考え方」を働かせて対象と関わり、心動かせる体験を積み重ね、年齢に応じて試行錯誤を繰り返しながら遊びが発展し、「深い学び」に繋がっているか
 - *他者との関わりを深める中で、自分の思いや考えを表現し、伝え合ったり、考えを出し合ったり、協力して自らの考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか
 - *周囲の環境に興味や関心を持って積極的に働き掛け、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの遊びを振り返って、期待を持ちながら、次につなげる「主体的な学び」が実現できているか
- ◎遊びの流れ
- *遊びが発展していく過程では、遊びと遊びまた生活の中での様々な出来事などが相互に絡み合いながら展開していく。そのことを可視化し、共通理解していくためのツールとして、遊びの流れの表を作成する。
 - *遊びそのものにどのような要素（おもしろさ・関わり・育つもの等）が含まれているかを分析していくことで、その遊びの発展や周りの遊びとのつながりなどについて、見通しを持つことができる。
- ◎環境構成
- *環境を通して行う教育・保育では、子どもが主体的に・自発的に環境に関わり遊びや活動が展開できるように人的環境・物的環境を設定する。
 - *園全体の環境・クラス等の室内環境は、その時期のねらい子どもが創りだす環境を意識して定期的に見直し、整えていくことが重要である。
 - *人的環境についても、園全体・学年・クラス等必要な形態をとりながら、遊びの要素や環境の意図に対する共通理解を図り、子どもにかかわる場面や言葉かけなどの判断や選択を見極める必要がある。
 - *園庭の環境については、各園の状況に応じた設定となるが、季節感のある遊びや運動遊びのスペース、固定遊具の使用の有無などを図や写真等で可視化し、安全面も含めて全職員で共通確認できるようにすることが望ましい。
 - *園内研究では、子どもの様子や子どもを取り巻く様々な園の実態に応じたテーマ設定を行い、日々の教育・保育をどのように進めていくか、職員で共通理解を図りながら実践を積み重ねていく。
また、大学教授等をアドバイザーとする研修を行い、保育実践への指導・助言を得るなどの機会を最大限活用し、よりよい教育・保育の充実につなげる。

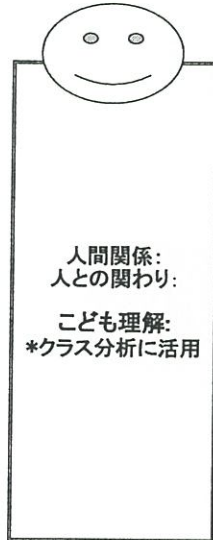
※公開報告の資料に添付する場合は、園報公開の欄、提出する文章になるので、子どもの関係性や背景が事柄は、内容を記入するが、月案の中に、子どもの名前を記入しない。
*具体的関係性は、子ども理解のための資料（エコマップ等）として、別資料を添付し、クラス分析や教育保育の点検、評価に活用すること。



★指導計画の作成（カリキュラムマネジメント）と園児の理解に基づいた評価・保育カンファレンスの手法

◎目的：教育・保育の質の向上、保育記録の可視化、保育の見える化、保育者・保護者・関係者など子ども理解の共有

◎指導計画を実施した結果を評価し、次の作成に生かす（幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 具体的な作成の手順）



人間関係：
人との関わり：

こども理解：
*クラス分析に活用

★子ども理解のために、関係を図式化する	
<p>◎エコマップ</p> <p>☆エコマップやジェノグラムは、子ども達を取り巻く環境を理解し、適切な子育て支援を提供するためのツール</p> <p>* 特別な支援がいる対象者の関係を表すもので、本人や周辺の話や、客観的に見た状況を判断して関係性を記すため、個人の「判断」に基づき記すものとなる。対象者やその家族が現在どのような状況に置かれているかを図式化する。支援の回数を重ねるごとに作成するので、作成した日時も記しておくこと。その後の保育や関わり、支援によって変化したものを繰り返し記録しておくことが、各機関や関係者と会議したり、引き継いだりする際に、現状を共通認識するために活用できる。</p> <p>* 教育・保育の中で、クラスの子どもの間関係性を表すこともできる。子ども同志の関係は右の図にあるように線でつなぎ、関係性の密度などを表す。決まった記号は単純なので、記入者個人の自由度は高い。クラスの担任で話し合いながら作成したり、園での実践報告会議などでも使用できる。また、学期ごとに作成することで、子ども達の変化が客観的に見ることができ、関係の課題が見えてくる。</p>	<p>(エコマップの記号)</p> <p>○と○を線で結んで関係性を表す 関係性によって線の種類を変える * エコマップで記す線の種類</p> <p>普通の関係 ————— 関係が強い ————— 関係が弱い - - - - - 対立関係 + + + + + 働きかけの方向 →</p>
<p>◎ジェノグラム</p> <p>* 子どもを取りまく環境⇒事実を記す</p> <p>* ジェノグラムとは、3世代以上の家族・親族関係を図式化したもの。家族の構成を、視覚的に表し、保育現場では、子どもを通じた家族を理解するのに役立つ。支援の必要な対象者を中心に、家族構成や関係を、記号をつかって表し、家族状況を把握する。家族支援を行うに当たってのキーとなる人物を見つける材料にもなり、複雑化している子どもの家庭環境を、言葉で理解することが難しいものを、視覚化することでシンプルに判断できる。</p>	<p>(ジェノグラムの記号)</p> <p>対象者の記録・・・2重線 性別・・・男性□ 女性○ 不明△ 年齢・・・記号の中または下に数字を記入 死亡・・・黒塗りが、×印 妊娠中・・・△印 婚姻関係・・・図形同志を実線で結ぶ 同棲・・・図形同志を波線で結ぶ 離婚・・・婚姻の実践に斜めの二重線 子どもの場合・・・婚姻の線から下に実線 同居している家族・・・曲線で囲む 別居・・・婚姻の実線に一重線で区切る 再婚・・・対象となる人から横に実線</p>
<p>★ビデオ、写真、観察記録などを利用して分析をする</p>	
<p>◎ドキュメンテーション 関係活動モデル ポートフォリオなど</p> <p>* ドキュメンテーションとは、弾力的なカリキュラム構成のための強力な道具として機能するもの。子どもの様子を注意深く観察し、精査することで、今後の遊びの展開を予測し必要な環境を準備しカリキュラムをデザインしていく。子どもの発言を録音する、活動の様子を記録する、ビデオに録音、写真を撮る（ポートフォリオ）などして記録する。そのドキュメンテーションをもとに、読み解き、議論することで、子ども理解を深める。課題や支援の方法を検討し、活動の振り返りをしてカリキュラムに生かしていく。発達の記録ではなく、実践を記録するもの。</p> <p>また、ドキュメンテーションは、保護者にとって、園における我が子の様子を知ることだけでなく、どのように活動しているか、なぜそのように活動をしているかを共有することができる。また、活動の外面の姿だけでなく、内面の姿を知ることができる。</p> <p>* 内面の姿を子どもの観察から、分析するのが、関係活動モデル。関係と活動について分析をし、どんな関係で遊んでいるのか、実際の姿から、受け入れられている場面、拒否されている場面を比較して他児との関係や自己肯定観の課題を明らかにする。また、活動に対して、外から見える姿だけでなく、何を楽しいかと思っで遊んでいるのかなど認識面やイメージなどを分析し、活動の課題につなげる。子どもの実際の姿を客観的に分析する方法。</p>	

●子どもの姿(事実)を分析する必要性●

☆ミーティングなどでクラス分析を考えたり議論する場合、頭の中で考えている事を手元に書いて文字や図形など図に記していく。そうすることで、複雑な関係性を視覚でキャッチしやすくなる。子ども達を取り巻く環境が複雑化しているため、より支援が必要な子どもや家庭的配慮を要する子ども、虐待家庭などの状況が一度に理解でき、保護者の支援にも有効である。

☆状況を把握した後、必要な支援を見落とさないように保育を進める上で、分析した結果を活用しながら、ソーシャルワークの考え方をより深く学んでいくことが重要である。また、他機関との連携や引継ぎなどに利用する。

☆子どもの事実を出発点に議論することで、職員同士が、現状や課題を共有しやすくなる。保育を進めていくうえで、方向性を確認できる場となる。また、保護者に保育内容を伝える手段として、結果だけでなく、そこへつながる過程の中で子どもの姿や課題を共有することができる。

☆人権保育の視点から、豊かな人との関係や、学力につながる力をどうつけていくかということではなく、念頭に置いて、カリキュラム作成を行う。（要領、指針という10の姿や、資質能力につながっている内容）

☆子ども集団の分析を行う上で、関係性を図式にすることで視覚的にとらえ個々を捉えながら全体把握を行うことが必要。

☆カリキュラムをデザインしていくためには、この年齢だから、毎年やっているからということではなく、客観的な子ども理解から、課題を考えていく必要がある。（PDCAサイクル）

☆子どもの姿を分析することで、次の課題を明確にしていけることが必要。どんな関係で遊んでいるかということだけでなく、何を楽しいかと思っで遊んでいるのかなど、遊んでいる姿や、経過などについても分析し、ねらい、内容につなげていく。

★月間指導計画：記入方法の参考資料3

月間指導計画 【 歳児 月】

めざす子ども像 (A健全な心と体をもつ子ども B主体的に考え行動する子ども C豊かな感性をもつ子ども D自分なりに表現する子ども)

月	日	月	日	月	日	月	日			
月の目標	<p>全体計画にある“子ども像”ABCDは、年間指導計画で年齢別に目標を立てている。3月までに成長する姿として年間指導計画では記載している。月間指導計画で、想定している子ども像(年の目標)を、期別ごとや2か月ごと、毎月ごとに分けて考え、保育の見通しとして記入する。ABCDは、総合的に考えた場合、その月によっては、目標が2つだったり、5つだったりしても良い。但し、自己理解のために、4つの子ども像が、入っているか、確認するために、その文の末尾に(ABCD)をつけて明示するとお理解しやすい。</p>							担任	副担任	講師
子どもの姿	<p>月の指導計画は、ひと月にするの2週間にするのか、年間の期別の姿を参考に、予想される子どもの姿を記入する。今月には、こうなってほしい、成長してほしい、子どもの姿を見通して具体的に考える。例えば、子どもの意欲的な姿も ぶつかり合う姿もプラスとして成長を促していくこと。</p>									
期	1週		2週		3週		4週			
ねらい	<p>年間指導計画を参考に、上記子どもの姿を見据え、先月の課題を踏まえて、その週・月に大事にしていきたいねらい(活動を通してこんなかわり、こんな姿を育てていきたい)を記入すること。</p>									
内容	<p>生活・遊びに記載した事項が、養護・食育・5領域や10の姿のどこに当てはまっているのか、遊びの内容を具体的に記入すること。5領域は、重なり合っている中で、特に中心に置きたい活動を、総合的に記入する。よって、単発で細かく10の姿を10個書かないといけないということではない。 ・遊びの質は、チェックすること。10の姿は、あくまでも方向性であり、到達点でないことを、遊びを考えたとき意識すること。 ・同じ遊びでも、遊び方が変わったり、週単位で遊びきれないこともあるので見通しの中で、追加して記入することもできる。 枠にとらわれないで記入する・・・そのために、週の縦線は、点線になっている</p>									
環境構成 保育教諭等の 配慮	<p>・子ども達一人一人の生き生きとした主体的な活動を引き出すために、保育者として関わる配慮を記入する(何を大切に、重要視しているのか) ・子ども達が、主体的・対話的で深い学びに繋がるようになる遊びの環境づくりを考えること。 ・保育を進めていく中で、「豊中市教育保育環境ガイドライン」等を参考に、子どもが自ら作り出す環境と保育者が意図して作る環境などを意識する。</p>									
保育者支援	<p>子どもの保育を行う上では、保護者の信頼関係は基本。その関係づくりのために保護者の背景を踏まえ、段階的に取り組む必要がある。保育者は、押し付けにならない関係づくりを子どもを中心に据えて、共同保育を進めていくこと。</p>									
地域支援 地域との交流 ○大人・子ども	<p>子ども園の子どもも、地域の子ども。地域の親子の支援は、子ども園として、機能の一つであり、職員全員で意識して計画し、取り組むことを記入する。</p>									
評価 反省	<p>主な活動が、どうだったかを評価反省する。そのために、子どもの観察など、子ども理解を行い子どもの姿(個人・クラス)の分析を行い、評価する。活動についての評価反省を行うようにする。その活動が、よかったのか、うまくいかなかったとしたら、活動の内容のどこを見直せばいいのか、(例えば、子どもが楽しんでいることは違う活動になっていたなど)について記入する。 反省だけでなく、必ず評価できること(子どもが育ったところ)を記入する。そのことを土台に、次月の課題を考える。 自分の保育の強みや弱みを把握すること。自己評価表などを活用しながら、保育の点検を行うこと。また同僚性を発揮し周りの意見を受容し自己の保育に返していく。</p>									
次月の課題	<p>評価・反省から、見えてきた保育課題を記入する。月の指導計画を見直ししながら、年間指導計画と照らし合わせ、今月のポイントとなる課題をまとめ定める。・・・⇒次月のこうなってほしい姿に結びつける。</p>									

記入するにあたって・・・

○年間・学期などを見通すことを大切にしながら、自分達が保育を進めやすいように、保育者自身が分かりやすいように工夫して記入すること。

○子どもの姿・ねらい・内容・環境構成・保護者支援・地域支援・評価反省など、縦線が点線になっているので、クラスで判断して区別すること。

まずは、記入して、自分の保育の重なりや考えを見える化し、保育を深めましょう!

*10の姿(健康な心と体/・自立心/・協同性/・道徳性・規範意識の芽生え/・社会生活との関わり/・思考力の芽生え/・自然との関わり・生命尊重 /・数量・図形、文字等への関心・感覚/・言葉による伝え合い /・豊かな感性と表現) ⇒方向性

月間指導計画 【 歳児 月】

めざす子ども像 (A健康やかな心と体をもつ子ども

B主体的に考え行動する子ども

C豊かな感性をもつ子ども

D自分なりに表現する子ども)

11月の目標	A B C D					担任	副園長	園長
		1週	2週	3週	4週			
子どもの姿								
期		1週	2週	3週	4週			
ねらい								
内容	生活							
	遊び							
環境構成 保育教諭等の 配慮								
保護者支援								
地域支援 地域との交流 ○大人・子ども								
評価 反省								
次月の課題								

*10の姿 (健康な心と体/自立心/協同性/道徳性・規範意識の芽生え/社会生活との関わり/思考力の芽生え/自然との関わり・生命尊重/数量・図形・文字等への関心・感覚/言葉による伝え合い/豊かな感性と表現) ⇒方向性

資質・能力の三つの柱に沿った、幼児教育において育みたい 資質・能力の整理イメージ（たたき台）

小学校
以上

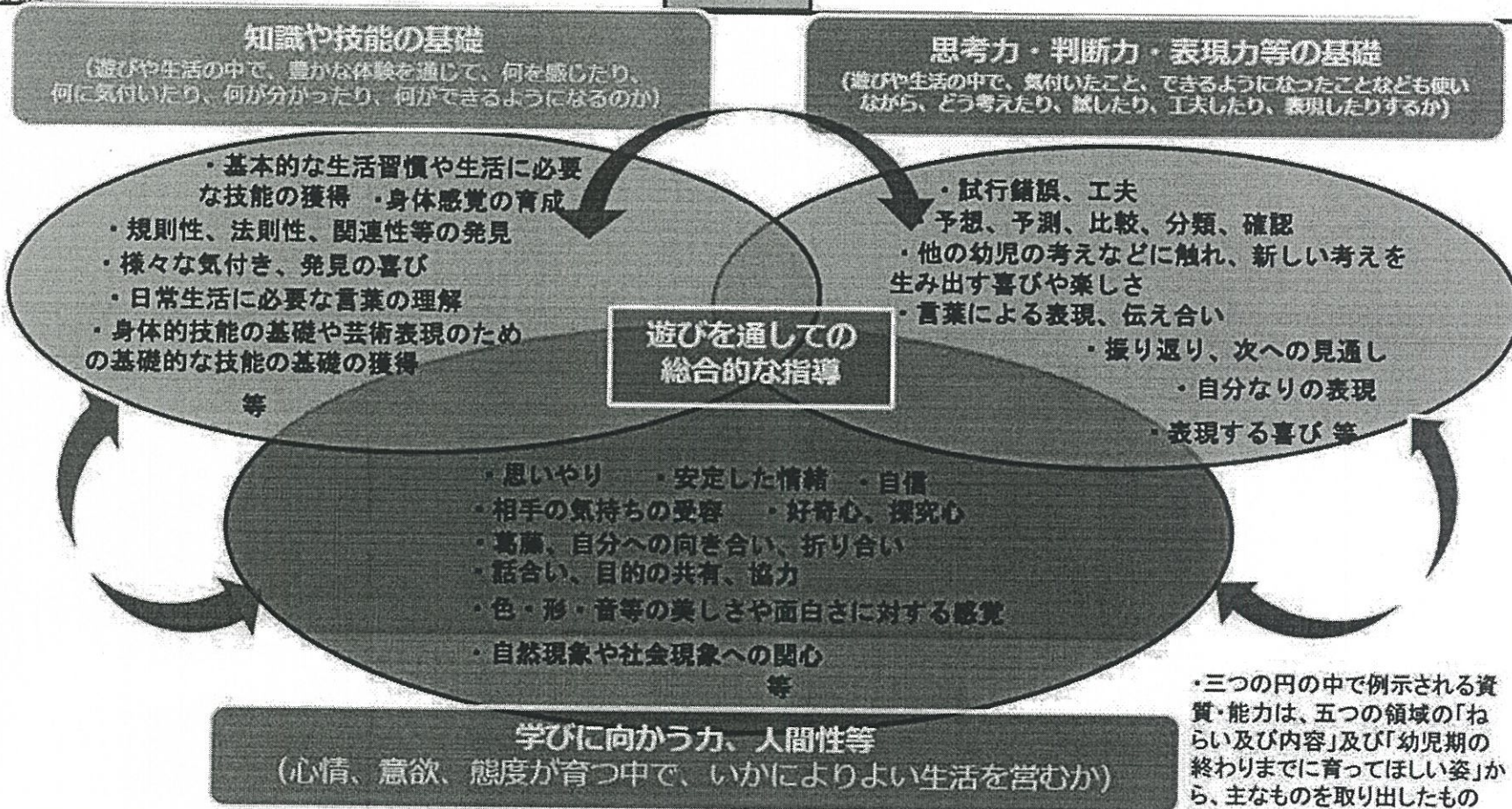
知識や技能
(何を知っているか、
何ができるか)

思考力・判断力・表現力等
(知っていること・できることを
どう使うか)

学びに向かう力、人間性等
情意、態度等に関わるもの
(どのように社会・世界と関わり
よりよい人生を送るか)

※下に示す資質・能力は例示であり、遊びを通しての総合的な指導を
通じて育成される。

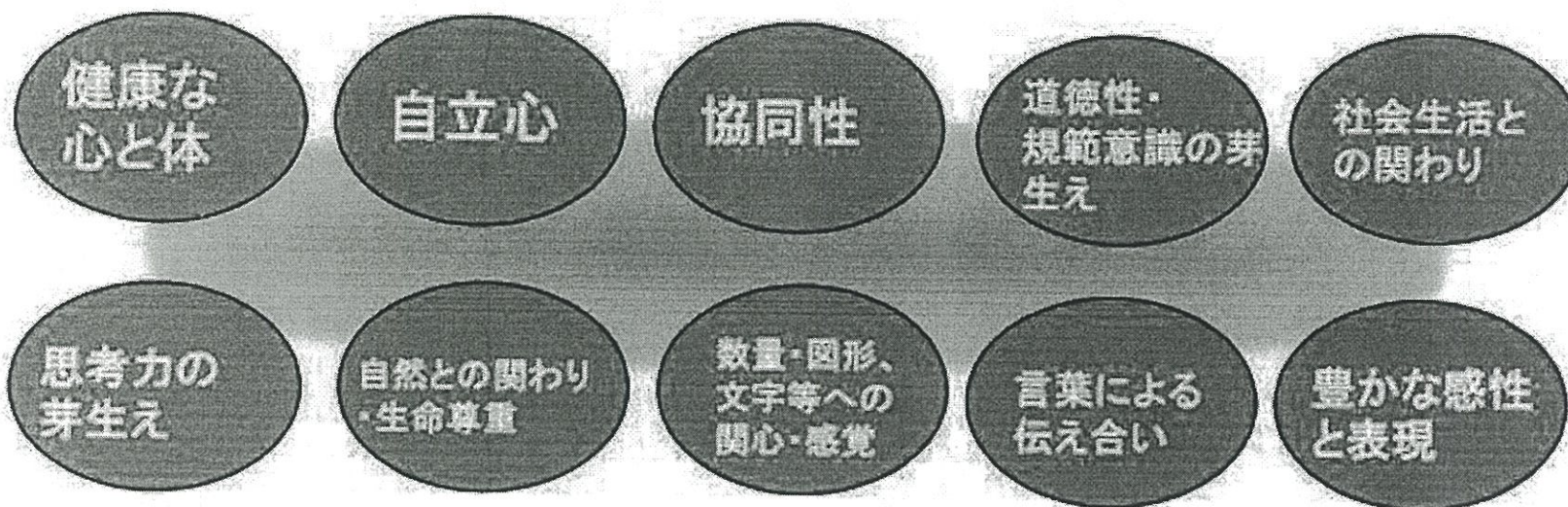
幼児教育
環境を通して行う教育



出典；国中央教育審議会（第109回）資料（平成28年12月）

○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

5領域のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するものである



幼保連携型認定こども園・幼稚園・保育所の職員と小学校の教員が持つ5歳児修了時の姿が共有化されることにより、小学校教育との接続の一層の強化が図られることを期待。

「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導するものではないことに留意が必要。

出典：国「幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び保育所保育指針の中央説明会、協議会」資料（平成29年7月）から